

3-10

演題	何から始めれば良い？ ICT
副題	～施設での実践的 ICT 化とは～

スマホ活用

法人名	社会福祉法人 セイワ
施設名	介護老人福祉施設すみよし

発表者名 (職種)	関 藍
共同発表者	中西 哲也
共同発表者	佐藤 雅賀
共同発表者	
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	川崎市中原区木月祇園町 2-1
TEL	044-455-0880
FAX	044-455-0883
メールアドレス	s-sumiyoshi1@soleil.ocn.ne.jp
URL	

今回の発表施設 またはサービスの 概要	すみよしは、平成 6 年に開設された入所定員 84 名、短期入所 16 名の従来型特別養護老人ホームです。人と人との出逢いを大切に、利用者様にいつも寄り添った介護支援を目指しています。
---------------------------	--

研究の目的、PR ポイント

介護施設では ICT 化が進んでいます。しかし施設規模で環境は様々、施設に ICT を導入したい気持ちはあるが、値段も高くすぐには導入できない、どれを選定すれば良いか分からないといった施設は多いはず。また、導入するも操作が難解で使い切れない場合の不安も有ると思います。そんな中、自施設で今活用しているスマートフォンやチャット機能も活用した ICT 化から業務改善に繋がった経過及び結果について報告します。

取り組んだ課題

介護業務で改善が必要と思われる項目を重点課題として挙げました。

- ① 事故を減らしたい
人手不足から他の業務も兼務しなくてはならず職員の見守り体制が薄くなり、防げる事故が未然に防げていない場合がある。
- ② 介護記録等の各種書類作成の負担軽減
パソコンで記録を行いたいが、設置場所まで移動しなければならない。記録業務も時には遅れてしまい時間外勤務となることもある。
- ③ 多職種間での連携強化
職員間での情報共有を円滑に行いたい。

具体的な取り組み

介護ロボット・スマート介護推進委員会を立ち上げ、ICT で何が出来るかを検討しました。

- ① 既存のナースコールをスマートフォンへ変更。
- ② スマートフォンへから介護記録ソフトへ入力を可能とした。
- ③ 連携強化を目的にチャット機能を入れ、その日の職員への周知事項、緊急伝達にも特化した。

活動の成果と評価

- ① スマートフォン画面でナースコール内容の確認や音声でのやり取りも可能となり、状況把握からの行動が臨機応変に動けるようになった。
- ② スマートフォンで記録を入力し介護記録ソフトへの通信を可能としたことで、その場での入力で手

書きの作業も減っていきペーパーレス化、利用者の傍で仕事出来る環境も確保できたことで、見守り体制の強化が凶れ事故が減り、無駄な移動時間の排除にも繋がった。

- ③ 医療処置など特定の職員を呼ぶ際には、その場を離れ、探す手間など時間の無駄があったが、チャット交信に切り替えたことで、伝達速度が上がり、目視することで、職員間での情報共有にも正確性が生まれた。また、時間に余裕がでると介護職員にも変化が表れ、結果的に身体・精神的負担の軽減にも繋がりました。

今後の課題

自施設においては、老朽化もあり、全ての ICT 機種が使用できるわけではない。ICT 化を進めるメリットは十分感じているが、人が係らなければならない業務の方が主軸であるとし、人と ICT が融合した介護を目指します。